

先進病院の視察研修

視察先
宮城県栗原市栗駒病院
みやぎ県南中核病院

栗駒病院について

平成21年3月完成、病床数一般45床、療養30床でオール電化の施設である。特徴として、栗原市栗原中央病院のサテライトとして慢性期医療中心の機能、他医療機関との病院連携の推進を図っている。民間の介護施設が病院を囲む形で整備され有効活用されている。

救急は、当直医師による夜間救急対応のため専門外の場合には断るケースもあるが月に約11件程受け入れている。保育所は医師、看護師、事務職員が利用できるよう整備されている。

接遇については、細やかに行っているが、理解や言葉づかい等への苦情については、接遇改善委員会を立ち上げ対応している。

みやぎ県南中核病院について

1市3町、角田市、柴田町、村田町、大川原町の約10万の

医療圏であり、平成14年8月開院し、その時に、155床の町立大河原病院を廃院にしている。65床の村田国保病院は無床化、診療所にすべきとなったが、結局は19床の有床診療として残ったが、大赤字である。そうした中で300床規模の中核病院が建設された。

病院建設の基本理念は、急性期医療に特化して地域完結型医療を目指すというものだった。

重点医療として

- ①救急医療
- ②悪性新生物
- ③脳血管疾患
- ④循環器疾患

病院理念

地域に信頼される質の高い親切的な医療サービスの提供

医師が集まる条件とは

一、病院の役割、方向性が明確であること。地域医療支援病院と支援病院として、紹介患者を診ることから一歩もずれないこと。

二、メリハリのある勤務態勢
地域で医療を守り発展させるといふ風土があること。住民と行政の理解と協力が必要である。

三、待遇に対する配慮

医局人事により派遣された医師が、また着任したくなるような病院側の対応も必要で、医療スタッフにとって魅力的な病院であること。

四、自治体病院の使命等

不採算でも民間にできないことをやるのが自治体病院と割り切るしかない。最も大切なことは「地域の救急をどうするか」ということである。

どんな救急体勢にするのかを明確にしなければ、ますます医師がいなくなってしまう。一線を明確にして、団体の病院の救急体勢を考えていかないといけない。

(小田嶋忠 記)



みやぎ県南中核病院の受付（フロアは全般的にホテルを思いやる一流ホテ

傍聴席

傍聴席から一言

松岡洋一(角館町)

初めての傍聴をさせて頂きました。

傍聴席の狭いのに驚きました。傍聴人が少ないから丁度良いのかな？

一般質問、答弁を聞きました。時間内で質問や答弁をしなければならぬので事前の内容を打ち合わせしているでしょう。余りにも質問や答弁がすんなりと進むので残念でした。

議論など全くなく疑問に思つてなりません。

想定外の質問を出して興味ある議論をどんどん出し合えたら市議会は活気があつて面白いと、傍聴者が興味を持って参加者は増えるのではないのでしょうか。

創意、工夫をしてもよろしいのではないのでしょうか。次の傍聴を期待します。

広報委員会から一言

一般質問は通告制度をとっているのに通告以外の質問はできないことになっていきます。

人事案件

教育委員に安部氏再任

平成24年12月21日で任期満了となる安部哲男氏の再任命案を全会一致で同意した。

任期は、平成24年12月22日から平成28年12月21日までとなる。

編集後記

総選挙が公示された12月の議会に門脇市長の政策の検証結果報告書が二つ提出された。

特に市民の期待の大きかった総合産業研究所を取り上げる。これは「4年間で所得10%以上増やす」魔法の玉手箱として市長のマニフェストの最大の目玉政策であった。

検証委員会は「鳴り物入りで誕生した所長と専門員が契約半ば(1年余り)で事業を去つて行ったことは残念」市民に所得向上の欠片も示せなかった」という厳しい評価をした。

職員と民間のギャップの検証が必要か。

(八柳良太郎 記)